



時代性という踏み絵

令和7年4月13日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

企業は時代性とともに唯一自己を可能とする。時代における変化への台頭を得ないならば企業は今日その永続を求めることはできないのである。

これらは競争原理と市場原理という経済の現実における企業に与えられた真実なのである。また今日既存システムは新しい生産性やITシステムにおいてその転換と崩壊を有するのである。

これらは時代性とともに企業が歩むことの絶定的な必要性の証明であり、時代性に優れることが市場を牽引できることを表すのである。

またグローバル経済の統一は世界における資本という現実がその先端産業の育成を行い世界における現実の転換が存在するのである。

また留意すべきは、グローバルスタンダードという現実が西洋の資本力において世界の統一性を模索していることは正しいのである。

これら世界の現実が新たな第3期へその転換を有し今日の変化の真実である。それら現実に対して企業は正しい判断を要求されるものである。

これらは市場基準と要求がその変化を与える事において企業が既存現実にとどまることはもはや不可能なのである。

これら時代性という進歩は今日その大幅な変化と社会転換を与えるものである。それら変化に対して企業が新しい基準へ自己の転換を得ることは未来における新しい現実への参加する唯一の選択なのである。

企業において時代を牽引することは時代に優れることであり、GAFAM やマグニフィセント7はこれである。これら基準を企業が受け入れ自己を行うならば、それら現実を自己とすることができるのである。